

第 19 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：平成 24 年 9 月 27 日(木) 19:00～21:20

場所：佐土原総合支所

参加者：

□市民：28 名

□専門家：

(宮崎海岸侵食対策検討委員会) 柴田委員

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

(県)河川課、港湾課、自然環境課、漁村振興課、

宮崎土木事務所、中部港湾事務所、中部農林振興局

(市)土木課、佐土原総合支所

事務局より開会の挨拶、専門家、国、県、市の出席者の紹介を行った後、吉武宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により議事が進められた。

まず、事務局より第 18 回宮崎海岸市民談義所以降の現地の状況及び養浜工事等の予定について報告の後、質疑応答を行った。次に、同じく事務局より第 18 回宮崎海岸市民談義所以降の委員会等の状況について報告の後、質疑応答を行った。

休憩を挟み、柴田委員より「宮崎海岸侵食対策における景観評価のポイント」と題して、効果検証に向けた新たな観点についての説明の後、質疑応答を行った。続いて、事務局より突堤建設工事の内容及び今年度の予定について説明の後、質疑応答を行った。

最後に、「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」からの活動報告、市民から「宮崎海岸ネイチャーゲーム」及び宮崎県から「全国なぎさシンポジウム in みやざき」についての開催告知があった。

また、会議の開催前 30 分程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

～第 18 回談義所以降の現地の状況及び養浜工事等の予定について～

事務局より、「第 18 回宮崎海岸市民談義所以降の現地の状況」及び「養浜工事等の予定」について報告を行い、その上で質疑応答を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

現地の状況と接近中の台風への対応について

[参加者]

- ・現在台風が接近中だが、動物園東では昨年度の養浜砂が流出しており、危険な状態になっている。また、養浜砂は台風にかかわらず大潮の時期に流出しているようである。

[事務局]

- ・現地の状況は理解しており、早急な対応として養浜等を実施していく。

[コーディネータ]

- ・先ほどの説明の中で、既にどこかでブロックの撤去を始めたような報告だったが、接近中の台風との関係に加え、その場所についても確認させて欲しい。

[事務局]

- ・ブロック撤去は大炊田海岸で実施されるが、現在堆砂等によりブロックが砂に埋まっている状況である。なお、今回の台風前に撤去することはしない。

説明時における潮汐表示の工夫について

[参加者]

- ・潮汐については予測できるはずなので、説明の際にそれを表したものを示してはどうか。大潮・中潮などと口頭で説明するより理解しやすい。

[事務局]

- ・資料の見せ方の工夫すべき点として、次回の談義以降対応していきたい。

～第18回宮崎海岸市民談義所以降の状況について～

事務局より、「第18回宮崎海岸市民談義所以降の状況」について報告を行い、その上で質疑応答を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

委員会の場での傍聴者発言について

[参加者]

- ・第11回委員会を傍聴したが、一部の委員から「この工法について反対する」という厳しい発言があり、それに対して傍聴者の市民が発言したがっていた。そのやりとりを踏まえ、可能であれば、委員会の場で傍聴者にも発言する機会があっても良いのではないかとすることを提案したい。
- ・また、せっかく工法も決まった段階であるため、個別に反対される方には、国だけでなく県・市も含めて懇切丁寧な説明等の対応をお願いしたい。

[事務局]

- ・委員会での傍聴者の発言については、事務局だけでは判断しかねるため、本日の提案を委員長にも伝え、今後の対応を議論していきたい。

- ・なお、その発言の後に、事務局から計画内容の説明についてもきちんと行っている。

委員発言を踏まえた大炊田海岸の対応について

[参加者]

- ・第11回委員会での「突堤が沖に出ることは漁業に対してマイナス」「突堤を伸ばしても大炊田海岸の侵食を抑えることはできない」という一部の委員の発言を踏まえて、大炊田海岸への対応策をどのように考えているか。

[事務局]

- ・大炊田海岸への対応は、「宮崎海岸の侵食対策」に則って、養浜と埋設護岸を中心に進めていく予定である。

養浜の実績と効果の確認について

[参加者]

- ・養浜については、これまでにどれくらいの事業費で実施しているのか、またその実施状況に対してどの程度の効果が出ているのか説明して欲しい。

[事務局]

- ・養浜の事業費については、河川工事や道路工事等の他の公共事業で発生した土砂を現地に搬入するなど、他事業とのやり取りもあるため、きちんと分析評価しないと答えできない。
- ・養浜の効果については、定量的にどの程度の効果が出ているという回答は難しいが、侵食の速度を遅らせる効果は確実に出ている。

[コーディネータ]

- ・その効果は、いずれ効果検証分科会の中で、何らかの指標をもとに評価していく必要があるということだと思う。

[参加者]

- ・これまでにかけた事業費総額を教えて欲しい。例えば、平成23年度にかかった事業費がいくらという回答が良い。

[事務局]

- ・年間5～6億円、国の直轄事業化以降では、20～30億円の事業費（調査等含む）である。

構造物撤去の可能性について

[参加者]

- ・効果検証の結果、効果が現れなかった場合、元々の砂浜海岸の景観を取り戻すために、構造物の撤去も選択肢としてあり得るのか。

[事務局]

- ・これまでも何回か回答しているが、周辺に対して明らかに悪影響が生じ、問題となった場合には撤去も辞さないと考えている。

～効果検証に向けた新たな視点について

宮崎海岸侵食対策における景観評価のポイント～

景観の専門家である福岡大学柴田准教授（宮崎海岸侵食対策検討委員会委員）より、「宮崎海岸侵食対策における景観評価のポイント」と題して、効果検証に向けた新たな観点についての説明を行い、その上で質疑応答を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

景観面への関連意見

[参加者]

- ・直接海岸とは関係ないが、ユネスコエコパークに登録された綾町に行く機会があれば、景観の観点から問題のありそうな橋がいくつかあるので、それを見てもらえると良い。
- ・海岸の景観については、きちんと砂が付くかという問題が前提としてあるため、コンクリートの話だけではやや物足りない。

[専門家]

- ・ご意見のあった綾町について、是非見に行きたいと思う。

～突堤建設工事の内容について～

事務局より、「突堤建設工事の内容」について説明を行い、その上で質疑応答を行った。

質疑応答の概要は以下のとおり。

コーディネータより説明内容の確認

[コーディネータ]

- ・突堤建設工事に関して、景観の観点から A・B の 2 つの形状のブロックを現地に配置し、市民の皆さんにも見てもらえるよう対応することだが、コンクリートの洗い出しについても同様の対応とするのか確認させて欲しい。

[事務局]

- ・現地に設置するブロックについて、コンクリートの洗い出し加工を施すことは可能であるため、市民の皆さんには現地で確認してもらうような対応をしたい。

保安林区域との境界設定について

[参加者]

- ・この突堤は、海岸保全区域の指定区域外、すなわち「海岸保全区域は春分の日の日干潮線から沖側へ 50m を越えてはならない」という海岸法の規定から外れているため、非常に問題がある。

- ・また、赤江浜で裁判にまでなった構造物であることなどからも、景観の議論に値する施設ではないと思っている。

[コーディネータ]

- ・個人的な意見として発言することを妨げるつもりはないが、本対策はこの5年間の談義所での議論の積み重ねの中で決定したものであり、その積み重ねを十分尊重して発言して欲しい。

[事務局]

- ・現在、国の方から海岸保全区域の見直しの協議をいただいている。海岸管理者である県においては、関係部局との調整の上、海岸保全区域の見直しを行っているところである。
- ・海岸保全区域が干潮線から沖側50mを越えることに関しては、「海岸保全施設が50mを越えて設置される場合」、また「侵食が著しく海岸保全上の必要が認められる場合」においては50mを越えることもやむを得ないということが認められている。よって、海岸法の規定から外れていないし、全く問題はない。

突堤工事に係る看板等作成及び周辺整備の計画について

[参加者]

- ・工事にあたっては、立入禁止の時期ができるなど危険というイメージが付きまとうが、それを払拭すべく、宮崎モデルの新しいものができるという期待感を持たせるようなアナウンスや看板設置等はできないものだろうか。例えば、新しいスーパーができる際に完成予想図が描かれることがあるが、それが描かれているのと描かれていないのとでは印象も違ってくる。
- ・突堤工事に関連して、国だけでなく県や市、市民も一緒になって、道路等の周辺整備に向けた計画ができないだろうか。

[事務局]

- ・工事看板は現在いろいろと工夫して作成中である。良いアイデアがあれば、海岸出張所に是非提供して欲しい。
- ・道路等の利用に関連した周辺整備については、市や県などへ相談を投げかけているところである。厳しい財政事情の中ではあるが、国・県・市で協力できることを前向きに議論し始めたところである。

[コーディネータ]

- ・その議論を踏まえ、良い時期になったら談義所にも相談して欲しい。

突堤（完成後）への立ち入りについて

[参加者]

- ・先ほどの柴田先生の「人のいる風景が良い風景である」という説明を受けて今回の突堤も立入禁止にならないような計画にしてもらえると良いと思う。

- ・また、被覆ブロックには穴が開くことになるが、人が利用する場合は、安全確保の観点からそこにピッタリとはまるような小さなブロックで穴をふさぐことも検討して欲しい。

[事務局]

- ・完成後の突堤の利用に関しては、談義所でもこれまで議論してきたが、波浪による危険性の問題等も懸念されているところである。
- ・小さなブロック等による穴埋めのアイデアも含め、今後、是非現地を見てもらい、利用上の安全性確保に対する皆さんからの意見や提案をお願いしたい。

突堤の目的と設置位置について

[参加者]

- ・突堤は、上手からの砂を止めることが目的なのか、砂浜からの砂の流出防止が目的なのかがわからない。
- ・個人的には、既に護岸整備された現計画位置ではなく、砂浜からの砂の流出を防止できる自然浜の位置に突堤を整備して欲しいというのが以前からの要望である。

[事務局]

- ・突堤は、上手からの砂を止めることを目的とした施設である。
- ・砂浜からの砂の流出を抑制したいという考えを否定するものではないが、現計画の突堤位置は「できるだけ構造物を減らしつつ養浜等で砂浜を回復する」という方針を踏まえて決定した計画である。

[コーディネータ]

- ・現計画は、談義所等での議論の積み重ねの中で方針や対策を検討してきたものである。今後はその効果を検証しながら、必要であれば計画を修正・改善していくこととなるが、現計画がそのスタートだと理解している。

突堤の被覆材について

[参加者]

- ・突堤の被覆材は、当初の委員会等の議論を踏まえると、すべてが自然石でできるのだろうという認識でいた。あらたな景観の視点からコンクリートブロックになるとのことだが、コンクリートと自然石を組み合わせる（説明資料 P.47 のイメージ）方法はできないものか。

[事務局]

- ・事務局としても自然石採用の可能性を再度探ったところだが、費用がコンクリートブロックの8倍かかるため断念した。
- ・なお、次回談義所は、現地で突堤建設工事を見学しながら実施することを考えており、その際にまたいろいろと意見を聞かせて欲しい。

[参加者]

- ・「費用が8倍」とは全事業費の8倍ではないと思うが、イメージしやすいようにコンクリートブロックとも比較の上、金額で教えて欲しい。

[事務局]

- ・確かに全事業費ではなく、単純に言うと本年度の突堤の事業費1億円が8倍の8億円になるということだが、延長も考慮した具体的な金額については、次回以降の談義所等であらためて示したい。

～その他～

事務局より、「今年度の予定」について説明を行った。なお、参加者からの質疑はなかった。

～市民からの告知～

①「宮崎の海岸をみんなで美しくする会」からの活動報告

- ・第8回となる石崎浜のビーチクリーンを9/22(土)に開催し、参加者は170名(活動開始当初は30～50名程度)を超え、会としても非常に感謝している。
- ・呼びかけにあたっては、国土交通省にも協力してもらっているが、この活動をもっと広げたいと願っており、若い方(学生等)や談義所に参加の皆さんにも是非参加をお願いしたい。

②「宮崎海岸ネイチャーゲーム」の開催案内

- ・日時：平成24年10月28日(日) 9:00～11:00(受付8:30～、参加無料)
- ・場所：住吉海岸(フェニックス動物園東側海岸)
- ・内容：「自然への気づき」を目的に、子供と一緒にふれあいゲームを実施
- ・主催：ひむかの砂浜復元ネットワーク、住吉海岸を守る会
- ・別件になるが、今回の談義所では、全体に説明が長く、参加者の談義しようという気持ちが高まってきた頃に終了してしまった。もう少し、時間管理をきちんとお願いしたい。
- ・地元の方や利用者など頻繁に海岸を見ている人は、現場での侵食の進行が速いと感じるため、計画の実施が追いついていないイメージを持ってしまい、どうしても不安が先行してしまう。そろそろ養浜の効果を表などの目に見える形で整理して、対策の方向性が間違っていないことを示してもらえると良い。

③「全国なぎさシンポジウム in みやざき」の開催案内

- ・日時：平成 24 年 10 月 18 日（木） 12:15～17:00（入場無料）
- ・場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール
- ・内容：「古事記」「波旅（サーフィン）」「防災」等をテーマに、県内外の学識者や行政機関等が参加しての講演、パネルディスカッション
- ・主催：「全国なぎさシンポジウム in みやざき」実行委員会
(会長：宮崎県知事)

[事務局]

- ・本日の談義所はこれで終了するが、次回以降の談義所の運営の改善のため、アンケートへの協力も併せてお願いしたい。

以 上